

平成25年 第13回
教育委員会臨時会会議録

平成25年7月23日（火）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2379号

平成25年第13回臨時会

日 時 平成25年7月23日(火) 午前10時00分 開会
場 所 教育委員会室

「出席委員」	委 員 長	小 島 洋 祐
	委員長職務代理者	綱 川 智 久
	委 員	永 山 幸 江
	委 員	澤 孝 一 郎
	教 育 長	小 池 眞 喜 夫

「説明のため出席した事務局職員」	次 長	安 田 雅 俊
	庶 務 課 長	奥 野 佳 宏
	教育政策担当課長	山 本 睦 美
	学 務 課 長	佐 藤 雅 志
	学校施設担当課長	大久保 光 正
	生涯学習推進課長	白 井 隆 司
	国体推進担当課長	上 村 隆
	図書・文化財課長	前 田 憲 一
	指 導 室 長	平 田 英 司

「書 記」	庶務課庶務係長	柏 正 彦
	庶務課庶務係	鈴 木 さよ子

「議題等」

日程第1 会議録の承認

第2367号 第2回定例会(平成25年2月12日開催)

第2368号 第4回臨時会(平成25年2月26日開催)

日程第2 教育長報告事項

- 1 港区立中学校合同学校説明会について
- 2 図書館・郷土資料館の8月行事予定について
- 3 港区立高輪図書館分室の臨時休館について
- 4 8月指導室事業予定について

「開 会」

○小島委員長 皆さん、おはようございます。ただいまから平成25年第13回港区教育委員会臨時会を開会いたします。

それでは、日程に入ります。

(午前10時00分)

「会議録署名委員」

○小島委員長 本日の署名委員は、永山委員にお願いします。

第1 会議録の承認

第2367号 第2回定例会（平成25年2月12日開催）

第2368号 第4回臨時会（平成25年2月26日開催）

○小島委員長 日程第1、会議録の承認に入ります。

平成25年2月12日開催の第2367号、第2回定例会、同秘密会、同年2月26日開催の第2368号、第4回臨時会、同秘密会の会議録につきましては、承認ということでよろしいでしょうか。

(異議なし)

○小島委員長 それでは、承認することに決定いたしました。

第2 教育長報告事項

1 港区立中学校合同学校説明会について

○小島委員長 続きまして、日程第2、教育長報告事項に入ります。

まず初めに、「港区立中学校合同学校説明会について」。学務課長、お願いします。

○学務課長 それでは、7月6日土曜日に行いました中学校の合同学校説明会につきまして、結果を取りまとめましたのでご報告いたします。

7月6日午後2時から、赤坂区民センターホールで実施いたしました。お手元の資料ナンバー1でございます。中程に表で参加者数を各区立小学校単位で集計いたしました。

全体としますと、各小学校からほぼ満遍なくお見えいただいております。

合計の参加者数は261名ということで、昨年度と比べますと60名ほど少なくなっております。この要因の分析は難しいところではございますけれども、複数の小学校でフェスティバルが行われていたということで、そのあたりも影響しているのかなと思っております。

なお、この日梅雨明けして、あまりにも暑くて、来られた方も汗びっしょりでした。その中でもたくさんの方にお見えいただいたかなと思っております。

本日お配りした資料で、参加者にいただきましたアンケートを取りまとめておりますので、ご参考になればと思っております。

昨年度、初めて赤坂区民センターで実施し、運営上慣れない部分があって、受付時の混乱ですとか、途中の入退場での色々なご意見いただいたところを改めまして、全体としますと、運営自体については、特にご指摘いただくことはなかったと思っております。

参考資料の2枚目に、各学校ごとのご意見をまとめましたので、ご覧いただきたいと思います。やはりホールでの2年目ということで、各中学校の力もより入っていったのかなと感じたところがございます。全学校が映像を使って、先生方の人柄も全面に押し出しながら、限られた時間ではありますが、学校の特徴を出されていたと思っております。ほとんど「よかった」というご意見でした。

3ページのその他の意見です。今回、学校案内の中で特別支援学級の設置校は必ず特別支援学校のことを触れていただきましたが、参加された方からは、特別支援学級が紹介されていてよかったとの意見をいただいています。その他のご意見であったのは、予定時間を10分ほどオーバーしてしまったため、「時間はしっかりと守るべきだ」というご意見がありました。長過ぎてということではなく、「各学校は、約束の時間は守るべきだ」というご意見でありましたので、今後は運営面での学校間のつなぎとか工夫していきたいと思っております。

あと「先生一人一人は名前を言わなくてもいい」とか、「先生の顔が見えていい」というさまざまなご意見がございました。

また、「いいことばかり言っているのだから、何か課題みたいなことを出せないのか」などというご意見がありました。

六本木中学校が生徒のインタビューを流し、生徒の声が聞けたということで、「ほかの学校も聞きたかったな」というご意見もございました。

今回アンケートの集計結果も含めて各学校にしっかりとお返しをして、次回またよりよい説明会にしていきたいなと思っております。

来年度につきましては、平成26年7月5日土曜日の午後、赤坂区民センターで開催する予定でございます。

説明は以上でございます。

○小島委員長 ただいまのご説明に対して何かご質問あるでしょうか。

○綱川委員 今、六本木中学校が子どものインタビューを流してよかったという意見もあったということですが、例えばPTA会長がビデオに登場する学校があったり、反対に規制というか、申し合わせをしないで、10分与えるからその間は自由にやりなさいと10分を超えたらその場でストップさせるとか、そうすることでもっと学校の特徴が出たりアピールできると思います。申し合わせをしてしまうから同じようなものになってしまうのかなと思う部分もあります。例えば校長が一人でお話をしていた学校もあります。先生たちの生の声が聞きたいとか、本当は子どもたちの生の声を聞きたいのかなという部分もあります。その辺をどういうふうにしていったらいいのか検討いただきたい。運営委員会とか検討委員会とかは、あるのですか。

○学務課長 どういう形で内容が申し合わせられていくのかということなのですが、今回に

つきましても、事前に10校の校長が集まった上で一定の申し合わせをしたということです。

基本は、学校の先生方がしっかりと説明をするということです。アンケート結果を受けて、また校長先生方とお話をしていきたいと思います。

○綱川委員 第1回目、うちの子どもがちょうどその年齢の頃に参加しました。オリンピックの聖火ランナーに選ばれた中学生を何校からか出してきてアトラクションとしてやって、ほかの校長たちが「掟破りだ」とか「ずるい」というような発言がありました。やるのならみんなで申し合わせをしないと、よくないと思います。

あと全体的に気がついたのは、大分少なくなりましたが、私学のように制服を褒めたりするのはやめたほうがいいのかと思いました。学校をアピールする論点としては不適切です。

○小島委員長 回答はいいですか。

○綱川委員 ですから、きちんと協議会を設けるとか、校長先生方で話しているのならいいのだけれども、役所のほうも立ち会ったりして一緒にやったほうがいいのか、それとも自主性に任せるなら任せるでいいとも思いますが。

○学務課長 もちろん学校の意向を尊重するという姿勢でありますけれども、やはり教育委員会としての事業ということもありますので、私どももしっかり考え方を持った上で最大限学校の校風が表に出るような説明会にしていきたいと思っておりますので、しっかりと学校とは連絡を取り合っ
てまいりたいと思います。

○綱川委員 お願いします。

○小島委員長 ほかに何かございますか。

○澤委員 色々細かな点は改善するということですね。もちろんこういうことをやるとたくさんの方が様々な視点で色々なことを言うわけで、それをいちいち聞いていたら何もできないということもあるわけですが、そういうご意見は尊重しながら改善していかなければいけないですね。

我々がこの事業を始めたときからの経緯で言うと、ひところは随分低迷したわけです。最初スタートして数年後、あのときは順番もある程度決まっていた。大きな学校が終わるとみんなほとんど帰ってしまっ
て最後の学校はすごくみじめな思いをしたというようなことがありました。今は、それぞれの学校がそれぞれの特徴を一生懸命説明するというのが、保護者や子どもたちの関心
を呼ぶようになってきました。綱川委員が言われたように、よりよい方向で説明会を運営していくことが大事なのかなと、そのような印象を受けました。

○小島委員長 ほかに何かございますか。

この合同説明会なのですが、教育委員会として学校選択制を採用して、選択制によって各学校が切磋琢磨して、港区全体の学力、あるいは色々な意味でのレベルアップにつなげるということで学校選択制を採用した以上は、やはりこういう説明会をいかに充実させ、5年生、6年生の間に、区立中学校10校がおおよそどう
いう内容なのか、自分にとってどこが一番いいのか、これを知る機会として用意するのは教育委員会の責務だろうと思
うのです。そういう意味では今、綱川委員や澤委員が言われたように、この内容を充実させて、子どもたち、保護者に各
学校の内容を知ってもら

うというのは非常に大事なことです。

○澤委員 だから、気がついたのですけれども、前教育長のときもそうだったのですが、教育長が全体的なことを最初に挨拶を兼ねてお話されるのですが、小島委員長も言われているのは、保護者の期待というか、聞きたいところは、区立中学に行ったらどんな高校に入れるのかということなのです。だから、教育委員会の原理原則ばかり言うより、ある程度差し障りのない程度でこういう魅力的な成果が出ていますというような視点も教育長の挨拶のときにあるといいですね。具体的に区立中学校に入学して、みんなで切磋琢磨する中から、このような結果が出ていますというような。

○小島委員長 保護者の関心は、中学3年の15の春が高校受験でどうなるのかという非常に大事なことだと思うのです。ただ、私なども澤委員と同じで、そこを力説すると「学力だけ言って品がない」という批判を受けまして、「人格教育だろう、人間教育。高校受験のことだけ言うのは品がないのではないか」というような意見もあって、ついつい私も最近はあまり言わなくなってしまうした。

○澤委員 確かに委員長が言われているように、子どもたちが自分の能力を伸ばすためにどうやって興味を持ってもらうかということが一番大事で、その結果として、それぞれの子どもたちがそれなりの進学ができるということが理想なのですけれども、保護者のほうは理想のことよりも具体的にどうなのかというのが気になる場所ですね。

○教育長 進学実績については、各校の資料のところで一応全て載っているのです。それはそれで見ていただければいいのかなと思います。

私の挨拶の中で気をつけたのは、港区の中学校がどんなことをやっているのか。それは他区に比べると、どういう進んだ、あるいはすぐれた教育を行っているのかということの説明して、例えば英語などは相当学力の高い、そういうようなことを中心に、ほかの区ではなかなかやっていない。だから、ある意味私立の受験を考えている方もいらっしゃるかもしれませんが、港区の中学校ではこれだけのことをやっておりますということを中心にお話しております。

前教育長が色々スライドを使ったりやったらしいのですけれども、時間が長過ぎるとか色々ご意見があったということだったので、そこは短く縮めてやりました。

○澤委員 それぞれの学校はそれぞれの学校で努力して、港区全体としてどういうことを目指しているのかということ、教育長がきちんと特に保護者の方に伝えていただくことが大事な役割だと思います。

○教育長 進学率についても、どういう説明の仕方がいいのか、また来年は工夫いたします。

○小島委員長 進学率はひとつの例で、確かに以前は各校が、進学校をちょっと遠慮して出していなかったのですが、それを出さないとなんもおもしろくないのですね。

○教育長 今は全部出ています。

○小島委員長 そうですね。だから、教育長が言われるように英語に力を入れているとか、では力を入れた結果どうなっているのかとか、そういうことが保護者の方に伝わればいいと思うのです。

○綱川委員 保護者は、学力調査のレベルなどが聞きたいわけですが、学校ごとに出していませんが、

わが子がここへ行ったら学力が上がるとか、次に部活動、部活動については相当興味を持っているみたいですね。ですから、ここの学校の紹介ページも、卒業生の進路状況とか部活動の内容などニーズにこたえてつくっているのかなと思います。ただ、参加者が261名で今年は少なかったと思います。もう少し集まりやすい方策がないかと思います。確か去年も話が出のですが、赤坂という場所がいいとか、例えば港南や港陽小学校の人たちは2時からだと時間的に難しいとか、食事してからでは間に合うように来られないとか、そういうこともあるみたいなので、集まりやすい体制がもう少し何か工夫できるかなと思いました。

以前は行政番号順にやったのですか、最初のころは。今は抽選なのですか。

○学務課長 今は校長会のほうで順番を決めています。

○綱川委員 アットランダムというか、今回は別に何の順番でもなかったですね。

○永山委員 私は、ずっと公立の中学校に子どもを行かせて、本当にすごくよかったと思っています。お台場学園ですけれども、港区全体の公立中学校のレベルはすごく高いと思っています。どこへ行っても皆さん素晴らしい学校だと思っています、ましてや公立でそんなに差別をつけることはできないと思っていますので、学校の説明をこういう会でするのはすごくいいことだと思うのですが、保護者をお客様扱いしているといいますか、地域にある学校なので保護者に地域をサポートすることを伝えるのも必要だと思います。学校のこともサポートするのだという意識や、私立と同じようにお金を払っているから選んでいるみたいな意識を持っている保護者も中にはいると思います。このような合同説明会をやって、レベルを上げていただいたことによってこれほどよくなったのかもしれないのですけれども、少しやり過ぎ感を私は持ちます。

○小島委員長 永山委員のおっしゃることも、確かにそのとおりだと思います。

どなたか、永山委員のご意見について、どうでしょうか。

○澤委員 永山委員の言われるとおり、義務教育で、学習指導要領で内容は決まっているわけですから、そんな根本的な差などというのはあり得ません。ただ、私どもが学校選択希望制を導入して、ああいふ説明会をやることによって、大きく変わったのは学校の先生方の意識です。それまでは入学してきた子どもをただ無難に送り出せばいいというような面、特に中学校の先生は教科担当なので、自分が理科担当なら理科だけやっていたらというようなところもあったのが、港区の10校ある中学校の中から自分らが注目されているのだという意識を持っていたということ、すごく中学校の活性化につながったのではないかと。説明会はよいと思いますが、あまり各学校が力を入れ過ぎて、永山委員が言うように行き過ぎみたいな側面もあるのかもしれないですね。

○小島委員長 学校の先生方はチームワークがいいです。今まで以上に先生方が自分の学校の所属意識が強くなったかもしれないです。

○綱川委員 学校間格差と言ったら変ですが、その差が出ていました。

○学務課長 永山委員のご指摘ももっともで、決してお客様ではないと思っています。ですので、今回の説明会に限らず、選択制をご案内するときには、まずやっぱり子どもさんをどういう学校で学ばせたいかというのをしっかり考えてほしいということと、学校の運営にかかわるという意識を持

ってほしいというのは、必ずこれからもお伝えしていきたいと思っております。選択するだけでなく、入学後も、しっかりとみんなで努力できるようにお願いしていきたいと思えます。

○綱川委員 港区の学校では、1週間学校を公開するとか、色々やっていますので、説明会で決めず、やはり保護者が見て、子どもも見て、それで納得して決めてほしいです。

今、佐藤課長がおっしゃっていたように、学校に対して協力的で、地域に対しても協力しないと希望選択というのは成り立たないというのを説明していました。お客様ではないのだろうけれども、261人ぐらいでは少ないというのは気持ちとしてはあります。本当は各学校へ行って見て、それで自分で決めてくださいと。合同説明会もありますぐらいでいいのかなと思います。

あと澤先生が「質問の機会がないではないか」とおっしゃっていましたね。

○澤委員 質問の時間があるべきだと私は思っています。私がよく学校の先生方の研究会で言っていることをまた学校説明会でもやっていて、澤委員が言っていることは教育委員会の中でも何の役にも立たないではないかと思われるかもしれません。短くてもいいから質問の時間はあるべきなのではないかと。その時間を調整するのは司会の役割で、私は研究会でも何でも、司会というのは大事な役割で、ただ流れに沿って「次はこれです」「これです」と言うだけなら誰でもできるわけです。しかし、質疑応答とかでは、時間制限もありますし、一人の人が次から次へと質問してしまう場合もあるわけですから、司会の役割をしっかり果たしていただいで運営をしていただければと思います。

○小島委員長 限られた時間だから、事前に質問できるというのはおかしいですね。

○澤委員 学会発表でも限られた時間なのです。限られた時間なのだけれども、一人でも二人でも質問すると、ほかの人は「ああ、そうか」と思うところもあり、それが大事だと思います。

○小島委員長 各校ごとに質問の時間をとったほうがいいですか。

○澤委員 そうではなくて、全体でしょうね。

○学務課長 澤委員のご指摘も一理あると思っております。これまでも最後にお聞きしてはいたのですが、個別のことが多いので質問しづらいというご意見もありました。今回はあえて質問時間をとらなかったところです。終了後に職員が個別の具体的な質問は受けております。

○澤委員 それはそれでいいのですけれども、質問がなければいけないと思います。全体的なことで参考になるようなこともあるかもしれないので、それを全く閉ざしてしまうというのはどうかかなと思います。1年かけて検討してください。

○綱川委員 アンケート表に質問書はなかったでしたか。ご意見と感想だけです。質問書を出してもらって、その回答についてはホームページでご回答しますとか、一人に対して回答してもみんなに波及しないので、そういうようなやり方もありますね。質問したことによって、ほかの人も分かることがあるでしょうから、そうすると一人だけに答えるのではなくて、そういうような今日いただいた質問は事務局で検討して、ホームページもしくは学校を通してお答えするのがよいのではないのでしょうか。

○澤委員 そうですね。より情報が行き届きますね。

○小島委員長 それでは、学務課長、また来年に向けて色々ご検討をお願いします。

この件はこの程度でよろしいですか。

2 図書館・郷土資料館の8月行事予定について

○小島委員長 続きまして「図書館・郷土資料館の8月行事予定について」。図書・文化財課長、お願いします。

○図書・文化財課長 図書館・郷土資料館の8月の行事予定につきまして、教育委員会資料ナンバー2を使いましてご説明させていただきます。

まず、1ページ目になりますが、おはなし会については、17回を予定してございます。

次のページに移りまして、ブックスタート、また、うさちゃんクラブでのブックスタート、計11回を予定してございます。

映画会については8回ということで、今回8月は終戦記念日がございますので、その前後に絡めまして平和関連の映画を中心に8回を予定してございます。

また、子ども映画会が5、みなとシネマクラブ、子ども会。子ども会のほうは、今回、夏休み期間でございますので、調べ学習、夏休みの工作会等を中心としまして7回を予定してございます。

その他としまして、DVDでの映写を5回予定してございます。

また、次のページへ移りまして郷土資料館でございますが、こちらも子ども関連で体験ミュージアムですとか、「見て・さわって・学ぼう」等の行事について予定してございます。

以上でございます。

○小島委員長 ただいまのご説明に対して何かご質問ございますでしょうか。

よろしいですか。

それでは、この案件はこの程度として次にいきます。

3 港区立高輪図書館分室の臨時休館について

○小島委員長 「港区立高輪図書館分室の臨時休館について」。図書・文化財課長、お願いします。

○図書・文化財課長 「港区立高輪図書館分室の臨時休館について」、教育委員会資料ナンバー3を使いましてご説明させていただきます。

休館予定日は、25年8月4日にしてございます。

休館の理由としましては、高輪図書館の分室につきましては、高輪子ども中高生プラザとの複合施設という形になってございますが、中高生プラザについては、現在夏休みの期間中にフェンス工事を実施していること、また、8月4日に、館内設備に地震による落下の危険性がないかの点検調査を実施することとなりました。この調査は、正式には非構造部材調査と申しまして、調査対象が大きな地震時に頭上にある天井は照明器具、バスケットゴール等の非構造部材が落下する危険性がないかの点検調査をするということになってございます。

中高生プラザの体育館と子育て広場を中心に以上のような調査を実施するのですが、体育館と子

育て広場の中に足場を組んだりする関係で、中高生プラザについては8月4日休館を予定してございます。そのため、中高生プラザを所管しています高輪地区の総合支所から、図書館の運営についての協議がございました。協議の結果、複合施設ということもございますので、高輪分室についてもあわせて休館したいというふうに考えてご提案をさせていただきます。

また、高輪図書館の本館のほうは同日開館してございますので、お客様については本館のほうを利用していただくようにご案内を努めてまいりたいと思いますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○小島委員長 ただいまの説明に対して何かご質問ございますか。

○綱川委員 1年前か2年前に竣工したはずですが、改修工事というのは、フェンス設置と書いてあるのですけれども、竣工して2年で何をやるのですか。

○図書・文化財課長 この中高生プラザの正面玄関側のところにフェンスを、地元からの要望もありまして設置してございます。

○綱川委員 地元要望ですか。

○図書・文化財課長 はい。それについては、中高生プラザを所管しています所管課のほうと施設課のほうで地元等との調整を図りまして、フェンス工事をこの夏休み期間実施してございます。目的は利用者の安全確保と聞いてございます。

○小島委員長 よろしいですか。

ほかに何かございますか。よろしいですか。

それでは、この案件についてはこの程度とします。

4 8月指導室事業予定について

○小島委員長 続きまして、「8月指導室事業予定について」。指導室長、お願いします。

○指導室長 それでは、資料ナンバー4に基づきましてご説明いたします。

夏休みということで研修会が中心になります。特に8月1日、2日ですけれども、これは毎年やっている教育学研修中央セミナーということで、さまざまな内容について、幼児教育から特別支援教育、教育相談、その他学校経営に関する内容まで含めて幅広く学べる講座を設置しております。

それから初任者研修の宿泊研修がございまして、8月5、6、7ということで、私も5日と6日に参りまして講義をしてまいります。一番上の講義が私が話す内容です。6日の午後、翌日の午後、教育委員会がありますので、そちらに合わせて戻ってまいります。交代で統括指導主事が参加します。

ヒューマンコミュニケーション講座については、本日追加で当日配付になりましたが資料を配らせていただきました。簡単にご説明いたしますと、この講師の先生の高塚先生は、鳥取大学の医学部の先生で、いわゆるお医者さんの卵、その人たちの指導をする中で非常にコミュニケーションについて課題意識を持っている先生です。DVDや鳥取放送などで放送した内容を見ましてお願いすることになりました。

特に今コミュニケーションツールとして、例えばメールだとか、あるいは携帯電話等によるコミュニケーションに方法がかなり変わってまいりました。この先生の課題意識は、生身の人間とのかかわりの体験が未熟であるということです。医学部の学生がお医者さんになって、患者さんに寄り添って本当に診療できるのかというところの、根源的な部分で人間関係づくりがうまくできないと大人になってからでもだめだということの主張があります。色々なプログラムがある中で、今回はテーマにあります「人を大切にしていますか？ そして、自分も大切にしていますか？」。背景にあるのは、自己肯定感を高めるという、自分の自己肯定感を高めないと人とかかわりの中でも影響するという、こういう趣旨の研修会でございます。

8月5日、冷房が入るということもありまして、御成門小学校の体育館を借りました。、200名程度ということで、各学校最低3名ということでお願いしておりまして、あとは一般区民の方を考えております。なお、今回は、区長部局と連携しまして共同開催ということで、ここにあります港区子ども家庭課と一緒にいきます。

続きまして、小学校の海外派遣が昨日出発しまして、無事に現地に着いております。プログラムによって朝から活動しております。中学校の出発式が8月12日月曜日、早朝ですけれども、この日から10日間という日程で参ります。

それから8月27日の火曜日ですが、これは水泳記録会ということで、また昨年同様、小学生についてはいくつかの学校に分かれて記録会を行います。改めまして、教育委員の先生にもご案内させていただきたいと思っております。

それから教育相談の研修、それから理科実技研修ということで、最後は海外派遣後の研修会、報告会に向けてのまとめということで予定が入っております。

説明は以上でございます。

○小島委員長 ただいまの説明に対して何かご質問ございますでしょうか。

教育工学研修ということですが、何で工学というのが入っているのですか。

○指導室長 なぜ入るか。主催者のほうの団体がありまして、そちらと共催なのです。それが教育工学ということで銘打っております。

○綱川委員 主催は港区ではないのですか。

○指導室長 港区教育委員会と共催の形をとって三田中学校を貸していますので、主催者団体のほうで教育工学研修セミナーということ。この研修会には、他区の先生方も参加できます。

○教育長 ICTの教育現場での活用が多いテーマではないですか。それを称して教育工学というのだと思います。

○澤委員 教育工学というのは、慶應で藤田先生という方が提唱して、教育の中に工学の技術を取り入れて、アンケートとか色々なことを機械を使って即座に集計したり、要するに教育の中に工学の技術を取り入れて、より効果的な教育をしようというものを「教育工学」と名前をつけたのです。その後、コンピュータなどがどんどん進歩したので、それも入ってきています。最近の実情はよく分からないのですけれども。

○小島委員長 そうですか。ちょっと珍しい名前だったので伺いました。

○澤委員 一時はやったのです。今は定着したということでしょうか。

○小島委員長 ある時期非常に斬新だという教育工学研修、「工学」と入るとなかなか。その1日目が幼児教育実践講座、幼児教育の実践というのはどんなことをやるのですか。

○指導室長 これは幼稚園の先生対象の研修も組み入れています。今、教育長がおっしゃったようにICTですとか教育相談とかさまざまな内容が入って、教科の専門性を高める中にもあります。、そのうちの一つで幼児教育も入れているということで、幼稚園の先生も参加できるという内容です。

○小島委員長 2日目のカリキュラムマネジメント、これはどんな人がどんなことで勉強するのですか。

○指導室長 学校は教育課程というのを組んでいまして、それをカリキュラムというのですけれども、それについてどうやって組んでいったらより効果的とか、主幹対象の研修会ということで学校の中核になる先生も入れておりますので、そういった学びの機会を用意しているということです。

○教育長 全体の研究主題というものがあって、その下に分科会とか色々あるのですけれども、研究主題が「学力向上に向けた授業力向上とICTの活用について」という、そういう研究主題で、色々な専門の大学の先生だとか、講師の中に随分多かったと聞いています。

○小島委員長 例えばカリキュラムマネジメントの、小中一貫で9年間に学ぶべき文部科学省が決めたカリキュラムをどう前倒しにするのかとか、バックアップするとかというのもカリキュラムマネジメントになるのですか。

○指導室長 考え方としてはおっしゃるとおり、カリキュラムを編成するときに色々な工夫ができますので当然入ってくると思います。

○小島委員長 カリキュラムマネジメントは大事なことです。分かりました。

○綱川委員 教育工学という、澤委員がおっしゃっているほうはテクノロジーの工学なのでしょうけれども、これは確か経営工学と同じで、テクノロジーというか、工業系の「工」ではないような話を聞いていたのですけれども。学校経営とか、経営工学ではないですか。澤委員がおっしゃっているほうの工学教育のほうのもあるのでしょうかけれども、二つあるような話を聞いていました。

これは多分学校経営とか学校の授業力とかそっちですよ。港区の先生というのは大体出られるのですか。

○指導室長 これは有料なのです。ただ、場所を提供しているとか共催ということで、港区の教員だけは無料になります。

○綱川委員 そうしないといい講師も呼べないでしょうし、文科省かどこからか補助金もらってないとできないですね。

○小島委員長 ほかに何か質問ございますか。

実技研修で以下を重視しているのですが、顕微鏡を使った観察というのは非常にオーソドックスで懐かしい感じがします。これは小学生・中学生にとって一番大事なオーソドックスな実技ということで取り上げているのですか。

○指導室長 顕微鏡なのですが、私も中学校の授業を見ると驚くのですが、使い方がよく分かっていない。普通はスライドガラスの上にカバーガラスを置いて、だんだんに上げていきますよね。近づき過ぎると割れてしまう。そんなことも分かっていなくて、こうやって下げていって、どんどん下げていってカバーガラスを割ってしまうような、中学生が中におります。これは明らかに指導が不十分というか、回数が少ないのか。顕微鏡の使い方というのは非常に基本的なところなのです、あとは倍率の選び方が違っていたり、目的に合わせて倍率を選ぶことができない。こうした実態から取り上げております。

○綱川委員 (中)と書いてありますが、今の話からするとこれは中学校の先生ですよね。小学校も必要ではないかと思ったのですが、小学校はやらないのですか。

○指導室長 小学校の先生も参加できます。

○綱川委員 (中)と書いてあるので中学校の授業かなと思いました。小学校でもやっているのであれば、この前の学力試験の結果で理科離れとか、理科の成績が低いとか、社会と理科が低いとか言われていますので、児童・生徒が使い方が分からずそういうふうになってしまったりカバーガラスを割ってしまうとか話がありましたが、学校の先生が果たしてちゃんと使えるのかということもありますので、そういう研修をぜひ、よろしくお願いします。

○指導室長 今おっしゃったような研修は、小学校にコア・サイエンス・ティーチャーといって青南小の寺師先生だとか、もう一人本村小の東條先生などいまして、専門性が高いので、この人たちが講師としてかなり実技研修を小学校では取り入れています。先生おっしゃるとおり、やらないと大学を出ただけではできないので、そういう点は十分注意しています。

○小島委員長 分かりました。

ほかに何かご質問ございますか。

○綱川委員 指導室は直接関係ないと思うのですが、学校で今年夏休みの節電対策学校休業促進というのはどのぐらい実施をしていますか。

○指導室長 何校か完全閉鎖の日もあります。

○庶務課長 節電対策としまして、8月の大概第2週目から、3週目、ぐらいいにかけて、最小限の人だけ登校していただきたいという、節電週間を設定していただくことを毎年お願いをしているところです。そろそろ学校では計画を立てていただいて、場合によっては1週間どなたも登校されないという学校もございます。

○綱川委員 なぜそんなことを聞いたかという、第1・第3土曜授業していただいて、学校の先生たちが疲れ切っているというような気がします。休みをちゃんととらせること自体が責務というか、そういうふうにしてあげるように指導してください。

○指導室長 教員の土曜日の勤務、例えば半日勤務したときは、勤務の振りかえができるようになっていまして、その土曜日の前3月、後4月はその範囲でできるのです。ですので、例えば1学期、2学期分については、夏休みにまとめられるような形で、その期間をうまく利用していただいてお休みいただけるように、配慮をしております。基本的には勤務の割り振りの中でお休みできる部分

になってございます。

○小島委員長 ほかによろしいですか。

それでは、本日予定している案件は全て終了しました。

庶務課長、ほかに何かございますか。

○庶務課長 特にございません。

○小島委員長 分かりました。

「閉 会」

○小島委員長 なければ、これをもちまして閉会といたします。次回は8月6日火曜日、午後3時からの予定ですので、よろしく願いいたします。どうもご苦労さまでした。

(午前10時51分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長 小 島 洋 祐

港区教育委員会委員 永 山 幸 江